

'92. 3. 11 高木さんから

九州21世紀への



地域戦略

——プラネットプランの創造に向けて——

執筆者リスト

- 樽木 武 (ちしゃき・たけし)
九州大学工学部土木工学科 教授
- 角 知 憲 (すみ・ともり)
九州大学工学部土木工学科 教授
- 井 上 信 昭 (いのうえ・のぶあき)
福岡大学工学部土木工学科 助教授
- 吉 武 哲 信 (よしたけ・てつお)
九州産業大学工学部土木工学科 講師
- 五 味 宗 雄 (ごみ・むねお)
C&C21研究会 主任研究員

ベースポートに移行する可能性が高いことから

③ スペース・プレインの実験時期(二〇〇〇年～二〇一〇年頃)において、エア・ラインが入り込んでいない空域が確保ができること。

④ 既存もしくは新規の宇宙関連施設のほりつきが期待できること。
も必要条件として挙げることができる。

現在、北海道・十勝地域、岩手県・遠野地域でスペース・ポートの構想があがっているが、以上の四点を考慮すると、九州南部たとえば、大隅半島にスペースポートを設置する優位性は充分考えられる。

三 九州を起点とする国際海路・陸路の整備

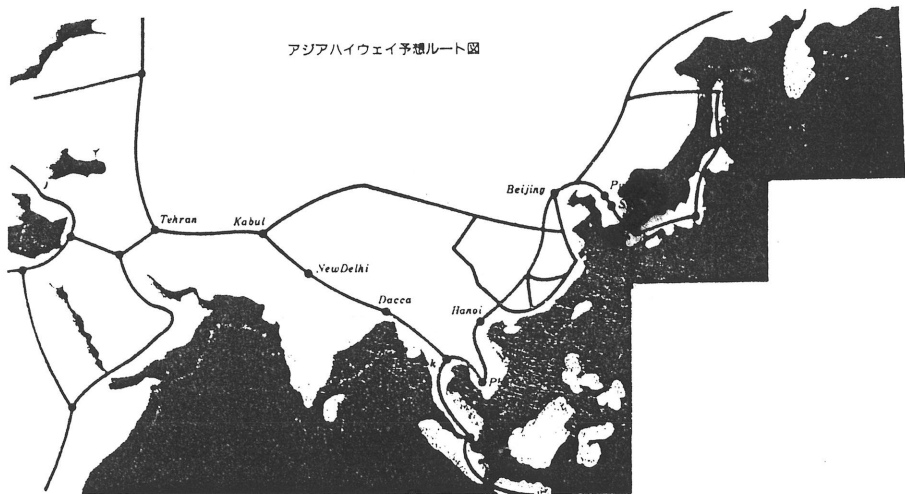
(一) アジア・ハイウェー構想と日韓トンネル

日韓トンネルは、一九八一年韓国の一宗教団体が提唱した「アジア・ハイウェー構想」「国際ハイウェー構想」の一部としてクロウズアップされるようになった。

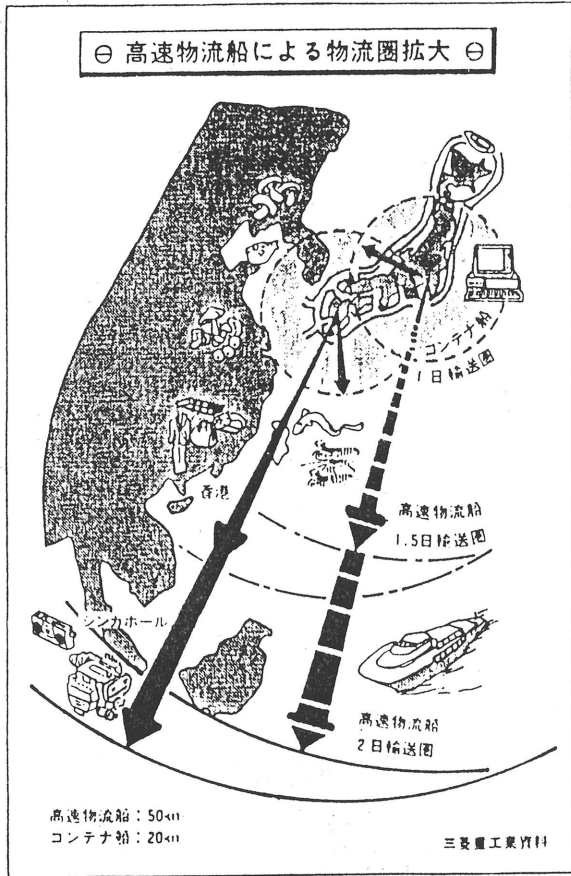
「アジア・ハイウェー構想」とは、日本、韓国、中国及び他のアジア諸国がハイウェーで結ばれば、アジア建設という基盤が自然に形成され、経済や文化の交流が密になり、アジア共同体が形成されるというものである。

10章 九州の国際交通基盤づくり

その中で日韓トンネルは、日本と韓国を結ぶ、巨済島↔対馬↔壱岐↔東松浦半島のルートで、総延長約二三五kmの海底トンネルのプロジェクトである。これに「アジア・エネルギー共同体構想」を付加することが考えられる。東京大学工学部教授 平田 賢氏を中心とするグループが提唱している「アジア・エネルギー共同体構想」とはエネルギーの分野で、アジア間の経済、技術の連系を深めようとする構想である。具体的には、エネルギー開発、エネルギーの安定的・効率的供給、環境保護、安全管理の強化等であり、アジアに豊富で、経済性、クリーン性に優れている天然ガス利用の促進、石炭をよく使う地域における低公害型の技術革新等を提言している。図十一三は、その構想の中でうたわれている超高電圧電線と「高圧天然ガスパイプライン」を示したものである。日韓トンネルにこの



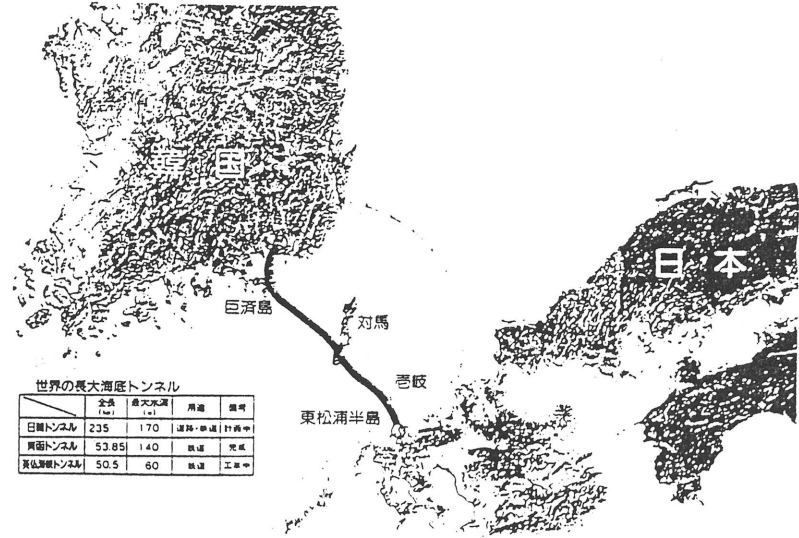
資料：国際ハイウェー建設事業団



資料：三菱重工業

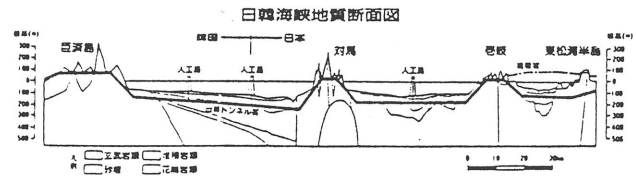
(二) テクノ・スーパー・ライナー (TSL) について

二〇世紀の交通三種の神器を、ジェット機、新幹線、高速道路としたならば、二一世紀のそれは、超音速旅客機 (スペース・プレーンも含む)、リニアモーターカー、そしてテクノ・スーパー・ライナー (TSL) を挙げることができる。その一つ TSL は速力五〇ノット (時速九三 km)、貨物積載重量約一〇〇〇トン、航続距離約五〇〇海里 (九三〇 km) 以上、料金はトラック並みを目指したものである。



世界の長大海底トンネル

	全長 (km)	最大水深 (m)	用途	備考
日韓トンネル	235	170	道路・鉄道	計画中
青函トンネル	53.85	140	鉄道	完成
英仏海峡トンネル	50.5	60	鉄道	完成



資料：国際ハイウエー建設事業団

天然ガスパイプラインを付加し、宗教団体ではなく、九州のナショナル・プロジェクトとして日韓トンネル建設の是非を改めて検討することは、九州21世紀の地域戦略としても十分価値あるものといえる。